



日本システム監査人協会報

支部特集

当協会の関西支部は昭和63年3月、中部支部は昭和63年4月にそれぞれ発足し、現在までに活発な活動を展開している。

本号では、各支部の最近の活動状況を紹介し、会員諸氏の支部への積極的参加を期待する。

《関西支部》

昭和63年3月に発足以来、1年半が経過しました。現在、会員は61名で、2カ月に1度の定例研究会を中心に活動しています。

本年度の定例研究会の内容は以下の通りです。その他のテーマとして、昨年持ち越しになっている「システム監査研究海外視察旅行」、「大学等でのセミナー開催」、「コンピュータ運用管理規程の作成」等はなかなか進まず、本格的に取り組むには、本部のように分科会等の設立が必要ではないかと思えます。

第6回 平成元年1月14日(土) 14:00~16:30

テーマ データ中心のシステム設計

発表者 石田充利氏

三菱電機(株)情報システム部

内容 1. データ中心のアプローチ

- ① R.L.ノーランのステージ理論
- ② データ中心アプローチに向けて
- ③ 概念DBの必要性

2. システム開発保守生産性向上活動

- ① 体系的システム開発方法論(PRIDE)
- ② データ分析技法(PLAN-DB)
- ③ ドキュメント作成規準
- ④ 各種ツール

第7回 平成元年3月17日(金) 18:30~20:30

テーマ リスク管理と情報化保険

発表者 深田哲信氏

- 富士火災海上保険(株)システム部
- 内容 1. リスク・マネジメント
- ① リスク管理
 - ② リスク・マネジメントの定義
 - ③ 企業の目的とリスクマネジメントの定義
 - ④ リスク処理のプロセス
2. 情報化保険
- ① 「コンピュータ総合保険普通約款」説明
 - ② 情報化保険の歴史
 - ③ 情報化保険特約条項について

第8回 平成元年5月13日(土) 15:30~18:00

テーマ コンピュータシステムの有効性・効率性とシステム監査

発表者 中谷正明氏

日本IBM関西第3営業本部

内容 1. システムの目的

- ① システムの目的
- ② 監査の視点
- ③ 承認ルール

2. 有効性・効率性

- ① システム監査目的と効率性
- ② システムリソースと有効活用
- ③ パフォーマンス
- ④ コスト・パフォーマンス
- ⑤ 有効性・効率性に関する監査項目

3. 有効性・効率性の評価

- ① 背景
- ② 評価制度
- ③ 評価の手法
- ④ 事例

第9回 平成元年7月7日(金) 18:30~20:30

テーマ システム開発の効率性と要員管理

発表者 中尾達成氏

日本シーアンドシーシステムズ

内容 1. ソフト開発の現状

2. プロジェクト管理(例)

3. 進捗管理と品質管理

- ① 進捗管理

- ② レビュー要領
- 4. 外注管理(要員管理)
 - ① 外注会社の選定
 - ② 外注会社技術者選定
 - ③ 技術者の管理と対応
 - ④ 技術者のモラル向上

第10回 平成元年9月9日(土) 15:00~18:00

テーマ 高度情報化における法的諸問題

発表者 松田貴典氏

日本ユニシス(株)

- 内容
1. 高度情報化社会とシステム監査の乖離
 2. コンピュータ・ネットワーク取引の現状
 3. 金融機関での電子資金取引
 4. コンピュータ取引による内部統制面での問題点
 5. コンピュータ取引による法的問題点

<トピックス>

研究会の講師は、毎回会員の中からお願いしています。関西支部(近畿会)は多種多才、優秀な人材が多いのですが(他支部と同じです)なかなか講師に立候補していただく方が少なく毎回、講師選びに役員は四苦八苦です。ただ、今のところ、お願いした会員の方は心よく引き受けて頂き感謝しております。

アルコール大好き人間が多いのも、近畿会の特色です。毎回、懇親会が定例になっていますが、研究会以上に熱が入り、ビールを飲むために参加しているのではないかと思われる方も、多々見受けられます。

近畿会の悩みのたねの一つは、研究会の会場探しです。会員のついでで確保していますが、なかなか大変です。予算上、あまり費用のかかる会場は使用できず、苦勞している現状です(本部からの分配金が、もっと増えると楽になるのですが……)。

近畿会内部は研究会を中心によくまとまっていますが、他支部との交流がないのが残念です。これは他支部も同様で、これからの課題ではな

いでしょうか。本部レベルでの検討をお願いしたいと思います。(No.153 白井謙次)

《中部支部》

去る6月24日(土)午後2時より、中部支部の第2回目の会合を持った。

参加者は、東京から転勤のN氏、新会員のI氏、Y氏それに本部から会計担当理事の小宮山氏を含めて都合10名であった。

テーマとしては、本年4月から実施された消費税の解説とフリーディスカッションであった。

1. 消費税について——大場氏 (No.112)

目先の対応を終えてほっとしている会員に、今後注意しなければならない点、その他あまり話題に上らないが大事な点に絞って解説していただいた。

①納税は早いところで9月から、3月決算の場合は来年5月である

②消費税の為のソフト費用は全額償却(費用化)できること

③徴収された消費税のうち6500億位が納税されないままになりそうである

④課税売上割合が95%を下回る場合は全額控除とならず特別な処理が必要である等がポイントであったかと思う。

2. フリーディスカッション

<システム監査>と<システムインテグレーション>をとり上げた。

参加者が、ソフトハウス・情報サービス業、一般ユーザー及び監査的立場の3グループほぼ同数ということもあり活発な意見交換がなされた。

<システム監査>

安全性や信頼性に比べあまり議論されることが少い効率性について話題が集中した。

・外部との競争関係におく為に電算部門を別会社にしたところ、ある部門はその会社に

依頼しなかった。

- ・ソフトを受注する側から見ると、客の要求をどうつかむかが問題。客の要求仕様が大きすぎる。
 - ・客の要求を明確にする方法としてプロトタイプ技法があるが時間がかかる。開発期間は長く2年である。
- また、会計監査とシステム監査の関係について質疑があった。

<システムインテグレーション>

- ・責任体制・人材がポイントでは
 - ・開発対象が拡大している一方で、システム開発技術の向上が少ない。
 - ・ユーザーは同一メーカーで揃えるのではなく自由な機器の組合せを考えてほしい。
 - ・経営の立場に立っての提案が必要
- 等が主な発言であった。

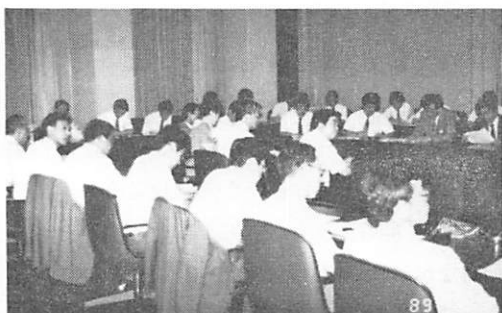
最後に小宮山理事から分科会への参加募集の説明があった。(No.4 沢 貞夫)

第7回 会員研究会開催さる

去る7月26日(水)、新宿センタービル52階の大成建設の小ホールにおいて、第7回会員研究会が開催された。今回は、当協会の理事でもある大成建設情報システム部 高橋保弘氏を講師にお迎えして、「マルチメディア・グローバル・ネットワーク」についてお話をいただいた。

<講演内容>

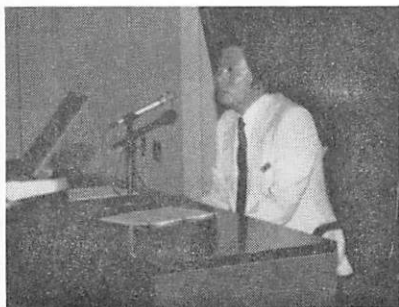
現行のネットワークは、本支店間を結ぶ電話やFAX又はアナログ専用線を使用したコンピュータ・ネットワークがあるが、これらの公衆回線やアナログ回線を統合化することは、今までは夢物語であった。しかし、現在では技術革新のおかげで可能になった。大成建設では「マルチメディア・グローバル・ネットワーク」の構築を全社5カ年計画の中に位置づけ、開発をすすめている(完成は、89年9月の予定



である)。

ネットワーク構築の狙いと概要は、以下のとおりである。

- ◎ ネットワーク構築の狙い
 - 「マルチメディア・グローバル・ネットワーク」
 - ⇒ 社内の電子メディアを統合化
 - ⇒ 汎用性の高いプロトコル(通信規約)の採用
 - ⇒ 文字・音声・映像の各データを全てのユーザーが共用
- ◎ ネットワークの概要
 - ①「基幹ネットワーク」～拠点間的高速デジタル回線網
 - ②「構内ネットワーク」～音声・データ・映像のビル内のネットワーク
 - ③「映像ネットワーク」～双方向のビル内映像ネットワーク
 - ④「支線ネットワーク」～広域VANを用いた工事現場等とのネットワーク
 - ⑤「ネットワーク管理」～本社で一元管理するための集中管理システム



◎ 各ネットワークの関連

- ①「基幹ネットワーク」と「構内ネットワーク」
- ②「構内データ系ネットワーク」と「構内映像系ネットワーク」・「支線ネットワーク」

ネットワーク構築の効果としては、音声系では①電話の高度利用 ②コミュニケーションの充実 ③呼損率の軽減 ④電話通信料の削減があげられる。また、データ系では、①利用機会の拡大 ②多機能端末の活用 ③応答時間の短縮があげられる。

分科会活動報告

本年度よりスタートした各分科会は、すでに積極的な活動を開始された。各分科会の幹事の方より、活動状況を報告していただいた。

■「システム監査事例」分科会

分科会メンバーのほとんどが、「監査報告書を見たことがない」という未経験者ぞろいで暗中模索、「群盲、象をなでる」状態で出発せざるを得なかった。7月11日は、メンバーの自己紹介と進め方について話し合った。メンバーのほとんどが監査経験がないので、とりあえず事例を聞きたい、というので7月11日には担当理事の吉川正氏から「小型システムの監査」事例について話していただくことになった。

吉川氏は富士銀行検査部に勤務し、本部の小型システムおよび海外拠点におけるインハウスオンラインのシステム監査を経験しており、その実施例をエピソードをまじえてお話していただいた。メンバーにとっては貴重な体験談であった。

今回は川野会長より「情報システム監査の技法」を、続いて藤森分科会幹事のシステム事例を元にした監査の模擬演習を試みる予定である。興味ある方は気軽に御参加下さい。

(No.9 蓮見節夫)

■「システム監査技法・手法」分科会

システム監査分科会（手法・技法）が、6月より、世話人の中尾氏、小宮山氏の御協力のもとに毎月一回の割合で会合を開いております。現在、世話人の方2名を含めまして、9名の会になっております。

分科会の目的としては、「システム監査の方法論の確立と、あるべき技術の提案を行なうこと、システム監査技法・手法の体系化を目指す」という事を目指しております。この様に高邁な目的を掲げておりますが、活動そのものは右往左往しながら進行しているのが現状です。この難しさの原因としては、一つには監査の対象が非常に広い事。即ち、アプリケーション面であっても、会計、生産管理等々、多岐に亘り、監査の局面にしても、企画・開発・運用という局面を持つ事があります。また、テクノロジー面に関していえば、OS、データベース、ネットワークという広がりを持ちます。この3つの軸（アプリケーション、システムのライフサイクル、テクノロジー）でマトリックスを作った場合、個々の枠をどう定義しその中での監査対象は何かを明確にし、監査の規準を構築する必要があります。また、もう一つの困難は、会員相互の立場の違い（会計士、ユーザの情報システム部門、メーカーの情報システム部門、内部監査人等々）があります。この様に、対象領域の広さ、個々人の関心の度合の違いという風に様々な困難はあります。しかし、これ等は今からの会合の中で解決していかれるものだと考えます。とにかく、今、必要とされるものはフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションであると考えます。現在は、今あるツールの文献による調査という事で、どの様な分野で、どの様なツールがあるのかを分科会メンバーで勉強しております。特にバッチ型のツールだけではなくネットワーク、データベースに対してはと

いう事で調査をしております。また、開発面に於ける監査対象の定義と、それをサポートするツール群のコンセプトをまとめてみようという事で活動しております。まだまだ個々人の興味の範囲で自発的に行なっております。そのうち一つのテーマにとりあえず収束させていき、発表できる様なものになりたいと考えております。

現代の高度化した社会を維持していく為に監査人の立場は増々、重要になっていくと思われれます。その為にも、上記の広範に亘る監査対象を明確にし、その監査の規準を構築する一助になればと思っております。(No192 木村陽一)

■「セキュリティ監査」分科会

現在までに2回の会合を開催した。初会合は6月26日に開催し、少人数ながら会の目的、運営方法、活動内容について話し合った。

その内容は、①当面の活動としては、委員が少数であることから、多くを求めず、焦らず、可能なところから着実に成果を残すことを基本方針とし、今年度は下記の2つのテーマを柱とし活動することとする。

- ・セキュリティの事例研究
 - ・コンピュータ犯罪に関する外国の事例研究
- ②定例会合を月1回のサイクルで行なうこととする。

③仲間が多数参加していただく様、会の活動を通じ勧誘活動を行なう。

ことを確認した。

2回目の会合は7月31日に開催した。分科会担当幹事である弊社に来ていただき、安全対策実施事業所としての計算センターの実状を見学していただいた。内容は通産省告示「情報処理サービス業電子計算機システム安全対策実施事業所認定規準」の概要解説、及びセンターの社内規程について概要説明と情報交換を行なった。その中で特に社内規程がかなり細かな部分まで規定されていること、例えばマシン出力帳票の

廃棄は、常に廃棄証明を取ることを義務付けている点など、高い評価をいただいた。弊社は都民の情報を預かる計算センターとして常に高いレベルのセキュリティ対策を外部から求められており、したがってその実状を知っていただくと共に、今後益々高度化するセキュリティ技術に対応するための、セキュリティ監査の研究に役立てることが出来れば幸いである。

<今後の活動計画>

今回は9月25日(月)に開催し、コンピュータ犯罪の事例研究を行なう手始めとして、アメリカ議会公聴会の資料を入手し事例研究する予定である。(No25 金子長男)

各分科会とも、活動を開始されたばかりです。興味をお持ちの方の積極的なご参加をお願いいたします。参加希望の方は、下記の担当幹事または担当理事までご連絡ください。

【各分科会 連絡先(敬称略)】

①『システム監査事例』分科会

・担当幹事

蓮見節夫(No9) ☎03-942-4321

[科研製薬㈱]

藤森健次(No118) ☎03-648-8326

[丸文㈱]

・担当理事

吉川 正(No183) ☎03-639-4351

[㈱富士銀行]

黒熊雄治(No67) ☎03-5562-1372

[日本ユニシス㈱]

②『システム監査技法・手法』分科会

・担当幹事

木村陽一(No192) ☎03-986-9711

[㈱CSK総合研究所]

・担当理事

中尾 宏(No76) ☎03-252-4111

[ビジョン㈱]

- 小宮山登志雄(No.55)☎03-394-5309
- ③『セキュリティ監査』分科会
- ・担当幹事
金子長男(No.25)☎03-343-4560
〔公営事業電子計算センター〕
 - ・担当理事
鈴木信夫(No.8)☎03-415-7111
〔NHK放送研修センター〕
 - 梅津尚夫(No.749)☎03-621-6543
〔ライオン㈱〕

新入会員名簿

平成元年7月5日～9月27日入会者 4名
平成元年9月27日現在で、正会員279名、準
会員20名、合計299名になりました。

氏名	勤務先	登録番号
松永 隆	古河インフォテック㈱	296
永田 淳次	沖電気	297
熊谷 祐司	三原信用金庫	298
安本哲之助	日本生命保険相互会社	299

*** 書評 ***

「システム監査技術者受験研究」

著者 石島 隆 技術評論社(¥2,400)

(89/7 初版発行)

システム監査技術者試験は、合格率6%台が示すように極めて難しい。特に午後の部が難関で事前に十分訓練しておかなければ合格は望めないだろう。本書は午後の記述と論文に的をしぼり、実に親切にきめ細かく攻略方法が述べら

れており、至るところに受験ノウハウがあふれている。著者は受験指導のベテランであり当SAAJの会員(初代理事)でもある。監査事例もわかりやすく解説されており同種の受験参考書に比べ熟成度は群を抜いている。受験生には必読の書としてお勧めしたい。

(黒熊 SAAJ理事)

事務局からのお知らせ

<会費振込みのお願い>

本年度(昭和64年1月1日～平成元年12月31日)の会費(正会員10,000円 準会員8,000円)を未納の方は、下記宛にお振込みください。

郵便振替口座 東京 1-352357
加入者名 日本システム監査人協会事務局
銀行振込口座 第一勧業銀行 北沢支店
普通 1053488
口座人名 日本システム監査人協会
事務局 鈴木信夫

※ なお、請求書は発行しないことを原則としておりますが、特に必要な方はお申し出下さい。

<住所変更について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

<会員の声募集について>

会員相互のコミュニケーションを図るため、『会員の声』を募集します。また、会報についてのご意見、ご要望もお寄せください。

この件については、会報担当宛に郵便またはFAXでお送り下さい。

発行所 日本システム監査人協会
発行人 川野 佳範
事務局
〒157 東京都世田谷区砧1-10-11
NHK放送研修センター内 鈴木 信夫
TEL.03(415)7111(内41) FAX.03(415)1388
※ご連絡はなるべく郵便またはFAXでお願いします。

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)
長野 正己 東京海上火災保険㈱企画三課
TEL.0425(76)1556 FAX.0425(73)3497
小松原 拓 富士通㈱ 教育部
TEL.03(735)1111 FAX.03(730)1389